

関ヶ谷自治会ホームページではカラーでご覧になれます

いざという時、隣近所で助け合える関係を作りたい

(防災訓練を終えて)

9月28日に行った関ヶ谷地区防災訓練には約700名の参加をいただきました。これも皆様の防災に対する関心の高さのよるものと感謝しています。

大地震で生死を分けるのは、運・不運だけではありません。大地震から命を守り、困難を乗り越えるのは私たち自身一人一人の備えと隣近所、そして、地域の絆で乗り越えるしかないので。

このような考えをもとに、今回の防災訓練では、班単位で近所の安否確認を行う試みを行いました。幸い、昨年の防災訓練の成果、防災ボランティアグループのこれまでの積み上げ、そして何よりも、これまで培ってきた地域の皆様の強い絆のお蔭で、今回の防災訓練を成功裏に終えることが出来ました。隣近所班を基本とする防災の進め方の正しさを確かめる事が出来たと思っております。訓練の結果、色々不具合な点も明らかになりました。これらの点は、来年度以降、直して行きたいと思えます。

大地震は必ずやってくる。その時、行政からの支援はすぐには届きません。私たちの命は私たちが守る。そのためににも普段から、日頃のご挨拶を手始めに、いざという時に、隣近所で助け合える関係をつくっておくことが大切です。万が一の避難生活、不安の中で避難生活。そんな時でも、皆が少しずつ我慢し、皆が一緒に力を合わせれば必ず乗り越えられる。だから、自助・共助の大切さを噛みしめて行くことが大事です。

先ずは、日頃のご挨拶、そして、いざという時、隣近所で助け合える関係を作りたい。

(関ヶ谷自治会長 田崎幸雄)



防災ボランティアの今後の進め方

防災ボランティアグループは災害時に助けを必要とする方を支援することを主な目的として平成23年に発足しました。その中で、最重要課題として安否確認を取り上げ、訓練を行ってきました。安否確認の対象者は、支援を必要とする方を少し広く捉え、安否確認を希望なさる方全員を対象としてきました。今回の自治会防災部と協力して行った安否確認訓練の結果、班を中心とした安否確認の有効性が確認できたので、今後は、原点に戻り、災害時支援を必要とする方の安否確認・援助を中心課題として進めることを提案したいと思います。

具体的には、安否確認・支援を希望なさる方のアンケート再調査を、11月に実施します。この新たな結果を基に、役員会で防災ボランティアの今後の進め方を検討し、来年1月の総会で新たな方向付けを審議して、決定する予定です。

(防災ボランティアグループ副代表 徳岡 正彦)

関ヶ谷地区

防災訓練報告

9月28日(土)午前10時から、安否確認を中心とする関ヶ谷地区防災訓練が行われました。今回の訓練は自治会防災部と防災ボランティアグループとが連携する形で実施されました。班長・地区長を始め地域の参加者が約700名、防災ボランティアグループからの参加者が50名でした。

安否確認訓練では自治会員および防災ボランティアグループメンバーが所属する班の班長宅前に集合し、班長と協力して班内の各戸の安否確認を行いました。具体的にはタオル巻き及び消火器出しの状況を確認し、出していない場合インタビューで応答を確認しました。これは昨年の自治会防災訓練を一步踏み込んだ画期的なことでした。

班の安否確認が終了した時点で、班の皆さんは、一時避難場所に移動しました。一時避難場所での訓練の後、安否確認情報は、地区長を通じて、自治会館に開設された本部に集められました(詳細データは関ヶ谷便りをご覧ください)。一方、防災ボランティアグループのメンバーは、安否確認希望者に登録している方の安否確認情報を持って、第1グループは西小学校へ、第2および第3グループは自治会館に集合しました。各グループでは、集められた安否確認データをチェックし、抜けがある場合、再度安否確認を行いました。結果的に

(一) 班による地域住民全体の安否確認
(二) 防災ボランティアによる、安否確認希望者のものれない確認

が、試みられました。安否確認に関して言えば一部重複して安否確認が行われました。



今回の訓練では班・地区の組織による訓練と防災ボランティアによる訓練が、連携しつつ、一部は独立に行動する形で訓練しました。このため、効率が悪いのではないかと、一部連携が上手くできていないとの声もありました。

地域に根差した班・地区と明確に目的を持って集まって来た人からなるボランティアグループという性格の異なる組織が同じ地域の防災と言う目的に対して、一部独立性を持ちながら連携するやり方は、危機に対応する仕組みとして非常に優れたものだと思います。

ここで自治会の大きな網と防災ボランティアグループの明確な目的に集中した力が存分に発揮されるものと考えています。ひとたび災害が起きた場合には、自立性のある複数の組織がある事が、二重、三重にも住民の方々を助ける事が出来る仕組みだと思えます。

関ヶ谷自治会副会長 萩尾 泰章
防災ボランティアグループ副代表 徳岡 正彦

役に立った災害時(3・11)の公衆電話

地震の起きた直後から停電になり、家庭電話は不通になり、携帯電話ももちろん繋がらず、家族との連絡もできなくなりました。

10円玉をたくさん持ち、バス通りの釜利谷西小の交差点のすぐ近くにある公衆電話に駆けつけると2、3人の方が並んで、順番を待っていました。

10円玉が足りなくなるとお互いに融通し合い、安全であることを簡潔に伝え、次の方へと交替していました。すると直ぐに災害電話(注)に切り替わり、10円玉も必要なく自由にかげられる状態になりました。真っ暗な中で人の列も長くなりましたが、皆最少限の連絡のみで切り上げていました。連絡先の多い方は1回終わった後また列の後ろに並び直し、みんなが気持ち良く連絡できたように感じました。

民生・児童委員 大橋 ひろみ

注 普通の公衆電話が避難場所に設置する特設公衆電話になったものです。なお、災害伝言ダイヤル1171、災害伝言版に関しては、回覧でお知らせします。



地震予知について



過去の地震の歴史から考える

ポイント

- ・南海トラフを震源地とする大地震が、百年〜百五十年に一回の頻度で発生
- ・東日本大震災まで我々は異常に大地震の少ない時代に生きてきた。
- ・三十年以内に巨大地震が発生する確率は高い。油断禁物

過去の地震データから、この先の地震発生の可能性を少し実感出来る形で考えてみました。過去のケースは、国の言う「30年以内に70%の確率で発生する」の範囲に十分当てはまります。特に東日本大震災に匹敵する巨大地震であった貞観地震(869年発生)とその後の巨大地震の連鎖は教訓的です。

挿入図説明:江戸時代の安政の大地震直後、鯨を主題とした錦絵が大流行した。挿入図は、鯨を退治する町人たちの様子。

大地震が起きるかも知れないといわれて皆さんは、どの様に感じているでしょうか。

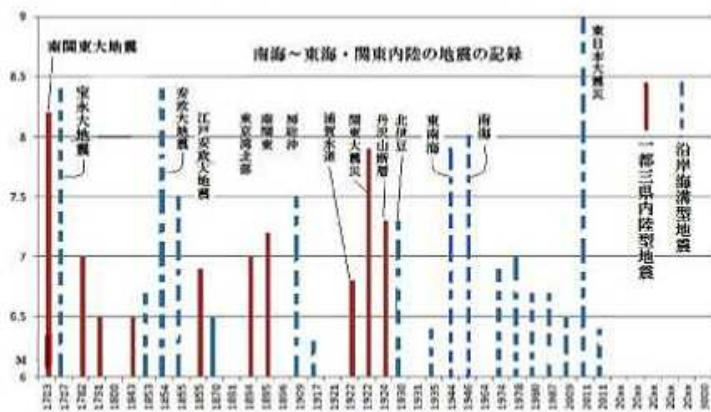
東日本大震災が発生してから2年半が経過し、少し地震に対する心配が薄れて来たように思います。国の中央防災会議の「南海トラフ巨大地震対策について」では「30年以内に70%の確率で発生する」と言われていますが、同時に「現時点では、何時どこで地震が発生するか予知は不可能」とも言っています。早とちりの人が「未だ30年先まで大丈夫だ」と受け取ったら大変、30年以内と言うことは、本当は、明日起きるかも知れないということなのです。



私たちは「30年以内に70%の確率」と漠然と言われてももずっと緊張感を維持することはかなり難しいかなと思います。そこで、大地震が「何時・何処で・どのくらいの規模」で起きるか凡その目途を知り、備えや心構えを持ちたいと言うことを切実に願わざるを得ません。そこで理論的に予知は不可能ならば、過去の地震の歴史から、統計的にどの位のインテンパルでどのくらいの地震が起きていたかを検証し、この結果を参考にして予測を立てるのが適切だと考えます。

- 869年 貞観地震 東北・茨城沖連動地震、M9?
- 870年 海岸から4kmの多賀城が津波で破壊
- 876年 相模・武蔵地震
- 877年 仁和地震 東海トラフ連動型? M9
- 878年 貞観地震から間をおかずに二つの地震が発生
- 1096年 永長地震 死者一万人、伊勢・駿河津波被害
- 1099年 東大寺の鐘が落下
- 1241年 康和地震 興福寺、天王寺被害
- 1241年 鎌倉で地震 由比ヶ浜大島居内押殿流失 M7
- 1273年 永仁鎌倉地震 死者1万人超 M7

東海・関東地区大地震記録(横軸発生)



これらの結果から、M8からM9の地震が上記の約十年の間に10回発生していることです。即ち約百年〜百五十年に一回の頻度で南海・東南海を震源地とする大地震が発生していると言う事です。また、大きな地震が連続して起きる事も歴史は教えています。典型的な例は、869年の貞観地震で、この地震は東日本大震災と同じ。

防災部・防災ボランティアの今後の活動予定

- 安否確認希望登録者の再登録：11月予定
- 防災ボランティア新規募集・再登録：11月予定
- 地域防災拠点訓練 12月7日開催予定
- 防災ボランティアグループ総会 平成26年1月予定
- 防災だより(3号)発行：26年1月15日



編集後記：自治会にとって、防災は最重要事項ですので、今回の第2号より全戸配布とし、防災部・防災ボランティアグループの共同発行としました。

規模の地震と推定されています。津波は海岸から4キロ先の多賀城址に損害を与えました。大事なのはその後9年後の878年に「東京湾北部」に大地震が発生し、更にその9年後の887年に南海トラフ沿いにも大地震(仁和地震)が発生しています。

これをそのまま現在に当てはめるとあと7年後(895年頃)東京湾北部に大地震発生し、16年後には南海トラフ三連動大地震が起きる計算になります。また別な例として、明治三陸大地震が25年に発生し、その26年後に関東大震災が起きています。更に別な例として、1933年の昭和三陸沖地震の10年後に東南海地震が発生しています。

一方、関東大震災以降90年間千葉、埼玉、東京、神奈川地区の内陸では、M6以上の地震が発生していません。これは嵐の前の静けで不気味です。

これらの歴史の教える所によると、早ければ数年〜30年以内に、関東もしくは南海トラフで巨大地震が発生する確率は高いと思います。油断禁物

防災ボランティアグループ代表 小西義一